



大会様式 4) をご利用ください

- ・ 研究発表論文印刷費用は不要となります

要旨集原稿は、テンプレートご利用の上、執筆要領にしたがって作成し、2023年2月1日(水)までに電子メールで提出していただきます。なお、発表査読は行いませんが、内容・様式に著しく問題がある場合は、発表を認めない場合があります。

- 発表応募締切 2023年1月10日(火) 必着
- 発表要旨完成原稿締切 2023年2月1日(水) 必着

<大会論文集担当> 発表のご応募やお問い合わせはこちらまで。

発表応募(大会窓口): taikai@jsthe.org

書式等問い合わせ(編集委員会) 獨協大学 鈴木 涼太郎: suzukir@dokkyo.ac.jp

【2022年度全国大会のお知らせ】

2022年度全国大会を2023年3月4日(土)・5日(日)に開催致します。テーマは「科目「観光ビジネス」導入による現状と今後の展望」です。日程の概要は以下のとおりです。詳細については追って学会ウェブサイトやメールリングリスト等を通じてご連絡致します。

1. 大会概要

四国大学(リアル会場)+オンラインでのハイブリッド型で実施予定

(四国大学:徳島市応神町古川字戎子野 123-1、徳島駅から路線バス約15分「四国大学前」下車 徒歩3分)

- ・ 3月4日(土):理事会、報告・研究発表(発表者はリアル会場来場を予定)、シンポジウム
- ・ 3月5日(日)午前:ワークショップ

2. 研究報告・教育実践報告の募集について

全国大会における研究報告および教育実践報告の発表者を募集します。いずれも、会員を筆頭者にする発表が条件です(連名者は非会員も可)。希望される方は、学会ウェブサイトにある募集要項(全国大会様式1)と執筆要領(全国大会様式2)、応募用紙(全国大会様式3)をご確認のうえ、応募用紙に必要事項を記入し、電子メールで2023年1月10日(火)までに送付ください。

なお2019年度より、『全国大会発表論文集』が『全国大会発表要旨集』へと変更になりました。主な変更点は以下です。

- ・ フルペーパー原稿ではなく各発表A4版で2ページの要旨の提出となります
- ・ 要旨の執筆にあたっては専用のテンプレート(全国

【理事会報告】

日時:2022年9月3日(土)13:00~14:30

場所:明海大学浦安キャンパス講義棟2階・オンラインウェア「Zoom」にて開催

出席:宍戸会長、橋本副会長、藤田副会長、大串理事、坂本理事、鈴木理事、千葉理事、中井理事、中村理事、難波理事、福本理事、古本理事、大島安奈幹事、岩田幹事、鈴鹿幹事、森園幹事、高橋監事

欠席:芝木理事、野口理事、峯俊理事、永田監事、板垣幹事、大島知典幹事、澁谷幹事

[報告事項]

議事1. 会務報告

編集委員会の鈴木理事より機関誌第16号の進捗状況について報告がありました。現在、投稿論文・研究ノートが査読中であり、うち2つの論文で会員以外による査読を依頼しました。また、書評については会員による書籍を4つ選定し、評者へ依頼済みです。2021年度全国大会・2022年度総会のシンポジウムについては、文字起こし、文書整理、登壇者による確認作業を進めており、2021年度全国大会ワークショップ報告については原稿を依頼済みです。

今後、編集委員会関連諸規定および機関誌・全国大会要旨集関連の原稿募集要項の見直しを行い、理事会で諮ります。なお、全国大会要旨集の原稿募集要項については、理事会での承認を経ずに編集委員会で改定案を作成することも想定しています。

[審議事項]

議事1. 第1回研究会について

岩田幹事より第1回研究会について報告がありました。第1回研究会は観光と言語をテーマに実施します。また、

ハイブリッド形式での質問環境を整えるため、Slidoを使用します。

議事 2. 2022 年度全国大会について

2022 年度全国大会は 2023 年 3 月 4 日 (土) ~5 日 (日) に四国大学で、リアル・オンライン併用で開催します。全国大会のテーマおよび講演内容などのプログラムは研究事業委員会で作成し、次回理事会で検討します。

全国大会実行委員の編成について検討されました。検討の結果、開催校の鈴鹿幹事を実行委員長とし、研究事業委員会、総務委員会、開催校ならびに開催校周辺の会員、編集委員会から実行委員会を編成することとなりました。また、特定の人に負担が集中しないよう配慮することやノウハウの共有の必要性が指摘されました。くわえて、リアルとオンラインのハイブリッド開催は運営上の負担が大きいことから、リアルでは参加できない人に対するオンデマンド配信など、省力化についての意見も出されました。開催方式については、開催校の状況を踏まえ決定します。

全国大会に関する会計処理について、対面開催の場合は全国大会特別会計で処理をしていましたが、ハイブリッド開催の場合は事前に参加費を徴収する関係上、本会計での処理となります。2022 年度全国大会もハイブリッドで開催する場合は本会計で対応することになりますが、懇親会を開催する場合は特別会計の編成が必要となり、会計処理が複雑になります。会計処理については今後、実行委員会と相談することとなりました。

前回大会では研究発表の会場をリアルで発表する会場と、オンラインで発表する会場を分けていましたが、それぞれの会場で聴講者数に差がみられたと指摘がありました。2022 年度全国大会では研究発表をリアルのみとするか、ハイブリッドを継続するか、次回理事会で検討すべきとの意見がありました。

議事 3. 次回研究会内容・理事会日程確認

第 4 回理事会および第 2 回研究会は 11 月 26 日 (土) にリアル (阪南大学あべのハルカスキャンパス)・オンライン併用で実施予定です。第 4 回理事会は 13:00~14:30 に、第 2 回研究会は 15:00~17:00 に予定されています。

第 2 回研究会は高大連携・教育実践をテーマとして、2022 年度グループ研究助成のもとで実施されたアンケートの結果報告、ならびに公立高校の教員による講演を予定しています。なお、会場校の福本理事の都合により、開催場所が変更になる可能性があります。

第 5 回理事会は 2023 年 1 月 21 日 (土) の 13:00~14:00 にリアル (四国大学)・オンライン併用で実施予定です。

研究会での会員外講師の謝礼について確認がされました。会員外の講師に対しては通例に従い 1 万円の謝礼を支払い、遠隔地の場合は別途交通費を支給します。

議事 4. 入会審査 (現: 正会員 187・準会員 10・特別会

員 1・名誉会員 4)

会員 1 名の逝去に伴う退会がありました。

議事 5. その他

研究倫理規定について意見交換がされました。他学会で作成されたものを参考にしながら事務局が素案を作成し、次回理事会で検討されることになりました。

3. 研究報告・教育実践報告の募集について

全国大会における研究報告および教育実践報告の発表者を募集します。いずれも、会員を筆頭者にする発表が条件です (連名者は非会員も可)。希望される方は、学会ウェブサイトにある募集要項 (全国大会様式 1) と執筆要領 (全国大会様式 2)、応募用紙 (全国大会様式 3) をご確認のうえ、応募用紙に必要事項を記入し、電子メールで 2023 年 1 月 10 日 (火) までに送付ください。なお 2019 年度より、『全国大会発表論文集』が『全国大会発表要旨集』へと変更になりました。主な変更点は以下です。

- ・フルペーパー原稿ではなく各発表 A4 版で 2 ページの要旨の提出となります
- ・要旨の執筆にあたっては専用のテンプレート (全国大会様式 4) をご利用ください
- ・研究発表論文集印刷費用は不要となります

要旨集原稿は、テンプレートご利用の上、執筆要領にしたがって作成し、2023 年 2 月 1 日 (水) までに電子メールで提出していただきます。なお、発表査読は行いませんが、内容・様式に著しく問題がある場合は、発表を認めない場合があります。

■ 発表応募締切 2023 年 1 月 10 日 (火) 必着

■ 発表要旨完成原稿締切 2023 年 2 月 1 日 (水) 必着

<大会論文集担当> 発表のご応募やお問い合わせはこちらまで。

発表応募 (大会窓口) : taikai@jsthe.org

書式等問い合わせ (編集委員会) 獨協大学 鈴木 涼太郎: suzukir@dokkyo.ac.jp

【研究会報告】

2022 年 11 月 26 日 (土) に「地域連携・高大連携」をテーマに、2022 年度第 2 回研究会をオンライン会場とリアル会場 (阪南大学あべのハルカスキャンパス) のハイブリッド形式で実施 (41 名参加) しました。

今回の研究会では、「観光を学習素材に含めた地域教育」を授業として実施する大学や高等学校が増えている中で、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進

事業」に指定されている長崎県立松浦高等学校のプロジェクトを事例として多角的な議論を行いました。岩田聖子氏（大阪医科薬科大学、学会幹事）の問題提起・進行の元、峯俊智穂氏（立命館大学、学会理事）および中村哲氏（玉川大学、学会理事）による2022年度本学会採択のグループ研究による中間報告を踏まえ、茶園孝一氏（長崎県立松浦高等学校）より同校の『まつナビ・プロジェクト』の展開についてご報告頂きました。短い時間ではありましたが、観光ホスピタリティ教育の今後の展望について非常に活発な意見交換がなされました。

【分科会募集】

本学会では、観光・ホスピタリティ教育分野の理論や実践方法に関する調査・研究事業を促進することを目的とし、会員からの申請に基づいた「分科会」の立ち上げを可能にする制度を設けています。

随時応募を受け付けておりますので、ウェブサイトより規程などを御覧いただき、積極的な応募をお待ちしております。

問い合わせ先：

学会事務局・担当：古本泰之（jimu@jsthe.org）

【機関誌編集委員会】

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第17号

＜投稿原稿募集のお知らせ＞

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育（英語名：Annals of Tourism & Hospitality Education）』の投稿原稿を募集いたします。

観光ホスピタリティ分野の教育活動を行っている大学院、大学、短期大学、専門学校、高等学校はますます増加しております。会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや学術的な研究の成果をぜひ、本学会の機関誌でご発表ください。

会員の皆様からの投稿を編集委員会一同、心からお待ちいたしております。また、編集委員会から原稿執筆などをお願いした際には、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

■ 第17号の原稿締切日：2023年4月30日（日）

※締切厳守

原稿投稿先：投稿申込書1部（Word）と投稿者の氏名を削除した審査用原稿1部（WordおよびPDF）にて

本学会本部事務局（jimu@jsthe.org）にメールで送付。申込書は本学会ホームページからダウンロードください。

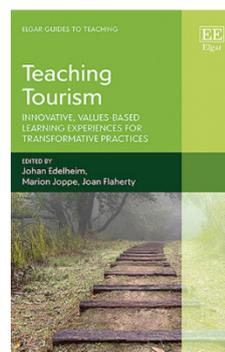
【新刊紹介】

Edelheim, Joppe & Flaherty (2022). “Teaching Tourism: Innovative Values based learning experiences for transformative practices”. Cheltenham, イギリス: Edward Elgar Publishing.

本書は、世界各国で活躍する48名の研究者の協力により執筆されました。編集者の北海道大学エデルヘイム、カナダ・ゲルフ大学のジョッピーとフラハーティの3名を含む筆者の多くは、国際的なネットワークであるTEFI（Tourism Education Futures Initiative）で活動しています。

本書は2部構成であり、各章は本書の編集者と、それぞれの章に関連する活動を行う寄稿者の共著で構成されています。このような包括的な共著により、各章の個性が際立ち、読者の関心に沿った順に読むことができるようになっています。

本書は理論的であると同時に実践的でもあります。各章では、あらゆるトピックについて、観光学の教師がどのように、そしてなぜ価値観を教育に取り入れるべきかの基礎が豊富な実例と共に示されています。教員の経験値を問わず、他国の高等教育機関の観光学教授法と、実践のヒントを得ることができます。



ハードカバー / ソフトバック / 電子書籍 291ページ
ISBN 978-1-80037-455-3

【編集人より】

ニューズレターでは、会員の皆さまから提供された観光ホスピタリティ教育の情報や書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

編集・発行人 坂本健成 (中村学園大学)
E-Mail : k.sakamoto@nakamura-u.ac.jp
FAX : 092-851-2531 (大学代表)

【事務局からのお願い】

学会事務局では、会員の皆様への情報配信の頻度を高めるべく、メーリングリストを作成しております。メーリングリスト未登録の会員で配信を希望される方は、学会事務局 (jimu@jsthe.org) にご連絡をお願いします。今後の主な情報配信媒体をメーリングリストに移行することを計画しており、何とぞ登録のほどよろしくお願ひ申し上げます。

【学会 SNS アカウント】

Facebook

<http://www.facebook.com/jsthe.org/>

Twitter

<http://twitter.com/JSTHEducators>